

學 藝 新 聞

第6号
2017年（平成29年）3月21日発行

- O.G.O.Pプログラム……………1
- ICETプログラム……………2
- 卒業式・マルチカルチャーデー……………3
- 輝く人（卒業生・在校生紹介）……………4・5
- 学芸トピックス・体育部紹介……………6・7
- 学芸スポーツ……………8

発行元

大阪学芸高等学校
OSAKA GAKUGEI SENIOR HIGH SCHOOL
大阪学芸高等学校附属中学校
OSAKA GAKUGEI JUNIOR HIGH SCHOOL
 〒558-0003 大阪市住吉区长居1丁目4番15号
 TEL.06-6693-6301 FAX.06-6693-5173
www.osakagakugei.ac.jp/senior




O.G.O.Pプログラム to Canada

1月14日、33名がカナダのオタワに向けて、一年間の留学に出発しました。

1月14日（土）、本校独自の留学プログラムであるOGOPに参加する生徒33名が、カナダのオタワに向けて出発しました。初めは不安と期待の入り混じった表情を浮かべていましたが、たくさんの家族や友人、先生に見送られ、笑顔で手を振りながら新生活のスタートを切りました。

大きな問題もなく、羽田、トロントを経由してオタワ空港に到着しました。空港ではホストファミリーが生徒の名前を書いた紙を掲げ、笑顔とねぎらいの言葉で出迎えてくれました。

1月19日（木）、語学学校（YPLS）にて歓迎会が行われました。YPLS職員やホストファミリー、在カナダ特命全権大使・門司健次郎氏も出席していただき、激励のお言葉をいただきました。（在カナダ日本国大使館のホームページにも歓迎会の様子が紹介されています。）




O.G.O.Pとは
 Osaka Gakugei Ottawa Program
 平成27年度より創設した、本校独自の留学プログラム。
 カナダの首都オンタリオ州オタワの公立学校に留学します。



2月2日（木）、オタワ市庁舎を訪問しました。



学芸ニュース



ICET プログラム to Australia

オーストラリア 留学



1月20日、ICETプログラム参加生徒3名が、オーストラリアのデビットソンハイスクールでの一年間の留学にむけて出発しました。

1月20日(金)、オーストラリア・シドニーに向け、ICETプログラム参加者3名が出発しました。生徒達だけでシドニーまで移動し、オーストラリアの大自然でのオリエンテーションで一年間を共にする仲間や教員たちとの絆を深めあい、現在は現地の高校(Davidson

▼たくさんの人に見送られ出発!



High School) の生徒として異文化体験や自己開発を中心とした教育スケジュールをこなしています。



▲現地校の生徒達と

▶ 現地校の制服を着て、オーストラリアでの学校生活を過ごしています。むかって左端から西川奈奈さん・谷田りのんさん、(3人おいて)一番右端が岡崎愛乃さん



クラスメイトとワイワイ盛り上がっています!

1-16 谷田りのん さん

オーストラリアは今、夏で、40°C越えの日も多くあります。学校にはクーラーがないのですごく暑く、家にもクーラーはあるけれどあまり使わないようなので、家の中も暑いんです。

私のホームステイ先はホストマザーひとりです。ホストマザーが家にいないときは友達と海に行ったりショッピングに行ったりしています。マザーがいる時にはなるべく自分の部屋に行かないようにして、たくさんおしゃべりしています。

学校では、現地の学生と一緒に勉強したりスポーツしたりできる選択授業の時間が好きです。クラスメイトとはずっとワイワイ盛り上がっています。

オーストラリア英語はアメリカ英語と少し雰囲気が違うので、聞き取れないときもあります。スペルも少し違います。

バスを降りる時には必ず運転手さんの目を見てThank you!と言って降ります。現地の人でThank youを言わずに降りた人を、まだ見たことがありません。

日本では言わない人が多いかな?と感じるので、ありがとうと言える人が増えるといいなと思いました。



クラスメイトたちと

優しいホストファミリーやクラスメイトに支えられています!

1-14 岡崎愛乃 さん

今オーストラリアは夏で、気温が40度超えの日が多々あり、とても暑いんです。学校の教室にもクーラーがなく、家にいる以外ほんとうにサウナにいるみたいです。

食べ物はどれも美味しくて、特に沢山あるフルーツがとても美味しいです。

私が人見知りで、そしてまだ英語に慣れていないため、ホストファミリーとはゆっくり話せていません。ですが、ホストファミリーはジェスチャーや筆談、Google翻訳を使うなどして、私にいろいろなことを教えてくれます。とても優しいホストファミリーです。

2/10は私の誕生日だったのですが、前日の夜にわざわざカップケーキをクラス人数分(32個)焼いてくれて、朝に「誕生日の子が友達にカップケーキを配るのがオーストラリアの習慣なのよ」と言い、カップケーキを私に渡してくれました。リセス(休憩)の時間に食べたのですが、見た目も可愛い上にとても美味しかったです。なんて優しいホストマザーなのだろうと思いました。

ホストブラザーたちは、私が食べ終えたお皿を、いつもすぐキッチンのお皿置き台に持って行ってくれます。

自分から挨拶をしたり、話しかけたりする勇気がなかなか出ないのですが、いつもホストブラザーたちの方から笑顔で挨拶してくれます。

学校で選択授業と英語と数学の授業を受けています。

選択授業だけ Davidson High School の生徒たちと一緒に授業をします。私は選択授業では全てスポーツを選択したので、シャトルランをした後にサッカーをするなど中々ハードです。ですが、Davidsonの生徒たちは運動神経がよく、私にとっても優しく接してくれるため、毎日楽しく過ごせています。

英語の授業は沢山の種類があり、日本とは全く違うと思いました。

日本とオーストラリアで違うなと思ったところは、毎時間の後に休憩がないことです。日本は毎時間休憩があるけれど、Davidsonの休憩時間は2時間目と3時間目の間のご飯の時間だけです。

ロッカーから教科書を取る時には次の授業の事を考えて取らないといけないので、早く慣れようと思います。



ホストブラザーたちと

オーストラリアに来てよかったと実感する毎日です!

1-11 西川奈奈 さん

オーストラリアは、とても暑いんです。少しずつ慣れてきて、現地の子と喋るようになりました。とてもフレンドリーで優しいです。「もっと英語を話せるようになりたい。」と日々思います。同じように日本から留学している岡山の友達もいっぱいできて、土日は買い物をしたり、海で夏を満喫したりしています。

家では、ホストファミリーの14歳と16歳の女の子と話すことが多く、服のことや化粧のこと、恋の話で盛り上がっています。歌いながら学校の宿題を一緒にしたりして、最高に楽しんでいます。

マザーとファザーも、テンションが高く、面白くていつも笑いが溢れています。まるで本当の家族のように私の居場所を作ってくれるので、幸せいっぱいです。

学校では、選択授業を3つ選びます。その中の2つとして、ダンスと体育を選択しました。日本の体育の授業とは違って、結構本格的です。英語の勉強に加え、自分の意思をしっかりと伝えなければならぬので大変ですが、みんなで楽しんで授業を受けています。選択授業以外では日本人の留学生と一緒に授業を受けるので、なるべく日本語を喋らないように気持ちを切り替えて、頑張っています。

もうすぐ1ヶ月がたちます。一日、一日がすごく早く感じられます。留学は自分にとって、大きな選

択で、いっぱい悩みました。けれども、オーストラリアに来てよかったと思います。「ほんとに幸せだなあ」と毎日思います。

応援してくれた家族や友達に、感謝の気持ちでいっぱいです。後悔ないように毎日頑張りたいと思います。



ホストファミリーと

第112回 卒業式

卒業生656名 未来へ翔ける!

平成29年2月22日(水) 本校本館体育館に於いて第112回 卒業証書授与式が挙行されました。



入場風景
吹奏楽部の演奏が流れる中、緊張した面持ちで入場する生徒たち。



卒業証書授与
担任の先生が一人ひとりの名前を読み上げ、クラスの代表者が壇上で証書を受け取りました。



卒業記念品 目録贈呈



送辞・答辞



花束贈呈
保護者から教員へ花束が贈呈されました。



三賞受賞者
大阪府教育長賞を始め、三賞の表彰がありました。

大阪府教育長賞 日本私立中学高等学校連合会会長賞 大阪府私立中学高等学校連合会会長賞



皆勤・精勤賞受賞者
今年度は3年間皆勤賞受賞80名、精勤賞受賞95名でした。

皆勤賞代表 精勤賞代表



送別歌斉唱
卒業生全員で「蛍の光」を歌いました。



卒業生退場
参列された保護者と教職員による花道を、卒業生が退場していきました。



最後のHR
担任の先生から一人ひとりに卒業証書が渡されました。

一人一言ずつメッセージを

最後のお話

担任の先生と話す姿や、クラスの仲間と写真を撮り合う姿が見られました。

附属中学校 マルチカルチャーデー

附属中学校では、週6時間の英語授業、週2時間の「国際理解教育」(総合的な学習の時間)の成果を生かす行事として、年1回「マルチカルチャーデー」を実施しています。

「国際理解教育」の2本柱である、①多文化共生の「学び」・②英語圏の人びとに限らず、母語を共通としない人びととのコミュニケーションツールとしての英語の使用、これらの日頃の成果を発揮する実践の場が「マルチカルチャーデー」です。

今年度は12月8日(木)に、大阪府国際交流財団からブラジル・韓国・ロシア・オーストラリアの方々をお招きし実施しました。午前中3時間程度の取り組みでしたが、中学1年生らしく、楽しく生き生きと活動しました。

前半は、各講師から、各国々の文化についてクイズ形式も取り入れてのレクチャー。後半は、各国々のボール遊びやダンスなどの活動を、実際に体を動かしながら行い、異文化体験・異文化交流を行いました。

卒業生の活躍



刑事裁判で文献に残る裁判を!

たなか たろう

2003年度卒業生

田中 太郎さん (31歳)



弁護士になるために、毎日、毎日、勉強を重ねてきた田中さん。目指したきっかけや、苦労したこと、色々なエピソードを語っていただきました。

弁護士になるために努力したこと、苦労したことは何ですか

やはり毎日の勉強です。これに尽きます。

法律の勉強は、なかなか結果として現れません。記憶して決まった回答をするものではなく、論理的思考力や事案分析能力が必要です。自分としては理解しているつもりでも、模擬試験等で結果が伴わないと精神的に辛いものがありました。

試験に落ちるとまたさらに1年間、勉強の日々を送らないといけないので、司法試験の合格発表のときは、本当に神に祈りました。

弁護士になるために必要なこと、大学在学中に習得すべき経験等

弁護士になるためには、大学で法学部に入学し、少しずつでも法律の知識を身につけることが重要です。ですが、一方で、法科大学院には「未修者コース」という、法学部以外の学生向けに、基礎から法律を学ぶカリキュラムを用意しているところもあります。実のところ、司法試験合格に必要な基礎知識は、法科大学院だけでも十分に習得できます(もちろん、かなりの量の自学自習は必要ですが)。よって、弁護士を目指すかどうかを決めるのは大学在学中でも間に合います。

法律家には、バランス感覚が必要です。ある事件を解決するにあたって、どういう解決が公平、妥当なのかということを見極めないといけません。この感覚は、参考書を読んで勉強しているだけではなかなか身につくものではありません。

ですから、法律の勉強をすると同時に、アルバイトやサークル活動、ボランティア活動等を通して多くの人の意見・思考に触れ、物事を多面的に検討できるようになることが大事だと思います。

司法試験についての簡単な説明と合格するために必要なこと

弁護士を含む法律家(裁判官・検察官)になるためには、司法試験に合格する必要がありますが、司法試験の受験資格を得るための方法は2つあります。

まず一つは、法科大学院を卒業することです。2006年に新司法試験が始まって以降、弁護士の多くは、こちらの方法を選択しています。

もう一つが、予備試験制度を用いて、司法試験の受験資格を取得するというものです。予備試験というのは、司法試験を受験するに足りるだけの知識を有するかを計るものなので、法科大学院卒業と同等以上の知識がないと合格できません。本番の司法試験以上に合格するのが難しいと言われています。

司法試験に限らないと思いますが、目標を達成するためには、①その目標を達成するにあたって必要なこと(司法試験では知識、法的思考力等)は何なのかを見定めた上で、②自分の状況を踏まえて、③目標達成に足りない部分を補っていくということを心がけるとよいと思います。

私が具体的に採った方法は、①司法試験の合格者答

案や司法試験採点官の意見を熟読し、どういった能力が必要なのかを分析する。②今の自分の状況を分析する。③科目ごとに必要な勉強内容をすべて書き出し、その勉強内容を全てこなすための時間を計算し、司法試験までの期間内に、自分がやるべき勉強をすべて終わらせるためのスケジュールを組む。といったことをしていました。

司法試験合格後、実際に弁護士として働くために通らないといけない道

合格後は、司法修習と言って、裁判所や検察庁、弁護士事務所などに見習いのような形で通い、実際の事件に触れることになります。司法修習は約1年間行われ、最後に2回試験という試験を受けることになります。実際の事件で作成するような書面を問題とするもので、現場で弁護士や裁判官として働く能力があるかが試されます。2回試験に合格すると晴れて弁護士として活動できる資格を得ることができます。

多くの弁護士は、司法修習終了後、既存の法律事務所に就職するので、司法修習中に就職活動をします。

私の場合は、最初から自分で事務所を構えたいという考えがあったので、就職活動はありませんでした。代わりに、設立場所を決めたり、備品を揃えたり、営業方法を決めたりといった苦労はありました。

現在携わっている仕事について

これに限定といった専門はありません。交通事故、離婚、相続、借金、契約問題、刑事事件など業務内容は多岐に互ります。

どのような事件であっても、基本的には事務所にお越しいただいて、法律相談を受けることから始まります。弁護士と依頼者との間には信頼関係を築くことが大事ですので、依頼を受ける場合には必ず直接会って話をします。

法律相談では、相談者の今置かれている状況をできる限り詳細に聞き取り、どのような解決を希望しているのかを確認します。その上で、法的観点から取りうる解決策と見通しを提示します。依頼者の希望する解決が法的に困難な場合もありますので、その場合は別の解決案を提示することになります。

法律相談で解決できない事件については、実際に弁護士が依頼を受けて弁護活動を行うこととなります。その際には、どういった方針で弁護活動をするのかを説明し、納得して頂いてから受任します。

おそらく、みなさんが思っている以上に、弁護士の活動は地味です。裁判一つとってみても、法廷で「原告と被告」あるいは「検察官と被告人」がバチバチ討論することは、実はあまりありません。ひとつの事件について、裁判所に赴くのは1か月から2か月に1回程度で、それ以外の時間は、証拠の収集・整理をしたり、文献等を調べて主張の準備をしたりします。

個人的に力を入れているのは刑事事件です。何度も警察署や刑務所に足を運んで被疑者から聞き取りをしたり、事件現場に赴いて犯行状況の検証を行ったり

プロフィール 田中 太郎 2003年度卒業生

誕生	1984年7月10日生
経歴	●2003年3月 大阪学芸高等学校 卒業
	●2007年9月 関西大学法学部 卒業
	●2011年3月 龍谷大学法科大学院 卒業
	●2011年9月 新司法試験 合格
	●2013年 弁護士登録
	●2013年5月 和泉府中法律事務所 設立

どのような高校生活でしたか

恥ずかしながら、正直言ってあまり真面目な高校生ではありませんでした。そんな私を見捨てずに指導してくださった先生方には、本当に感謝しています。

弁護士を目指したきっかけは何ですか

大学は関西大学法学部に入学したのですが、当初は全く法律家になろうと思っておらず、卒業したら一般企業に就職するつもりでした。ですので、大学入学後は普通の学生生活を送って、アルバイトとサークル活動に勤しんでいました。大学3年生になると就職活動が始まるのですが、私も最初は周りの学生と同じように就職活動をしていました。そんな時、アルバイト先の常連のお客さんから法律に関する相談を受けたのです。法学部生と言っても、講義では基本的な法理論を学ぶだけですから、本格的に法律家を目指して勉強に励んでいる学生でもない限り、実際の事件に対応できるだけの知識は持っていません。私は、そのお客さんの質問に答えることができませんでした。何か月かして、そのお客さんと連絡が取れなくなり、アルバイト先にも見えなくなっていました。その時に、「自分ももっと法律を勉強していたらそのお客さんのトラブルも解決できていたのではないか」「これから先、身近な人が同じように法律問題を抱えることがあるかもしれない」「誰かを助けたいと思ったときにそれを実現できるだけの知識や資格が欲しい」と思ったのです。考えに考えた結果、両親に「就職活動をやめて弁護士を目指そうかな」と相談すると、「あなたが頑張るなら応援するよ」と言ってくれました。両親の後押しが決め手でしたね。

します。被害者と面談して被害弁償や示談交渉をすることもあります。ときとして被害者から罵声を浴びせられることもあります。それでも、精一杯弁護活動をして、不起訴や執行猶予など、依頼者の望んだ結果を勝ち取れたときの達成感、言葉を越えたものがあります。

刑事事件の弁護士は、世間一般の方や被害者からすると犯罪者の味方と思われるかもしれません。ですが、刑事事件の弁護人が被疑者・被告人の権利を守ることは、社会的に非常に重要な意味を持っています。例えば、違法捜査が行われたのに弁護士がそれを黙認してしまうと、今後同じような違法捜査が繰り返されることになり、結果的に冤罪が増えてしまいます。弁護士が国家権力の横暴に対する抑止力にならないといけないのです。そういう意味で、刑事事件はやりがいのある仕事だと思っています。

刑事事件に限りませんが、弁護士業務というのは、業務内容に型がないのです。何をすれば依頼者の希望に沿った結果になるのか、可能な限り方法を検討して、意味がありそうなら実践する、というように、発想と行動力が大事です。失敗することも多いのですが、

弁護士という職業が自分の人生に与えた意味は何でしょうか

まだ新人弁護士の域を出ないので、今は勉強勉強の毎日で、これからその意味を見出していこうと思っています。

現時点でいえるのは、弁護士は人の人生に大きく関わる仕事である、ということです。自分の仕事の結果次第で、依頼者の人生が大きく左右されてしまいます。こうした経験は、弁護士という職業に就かなければできなかったことだと思います。

将来の目標・夢を教えてください

弁護士になったからには、刑事裁判での無罪判決や文献に載るような判決を取りたいという目標はあります。自分が関わった事件がきっかけで、社会に影響を与えることができれば最高ですね。ですが、今はまず目の前の事件にしっかりと向き合ってひとつひとつ解決していきたいと思っています。



学生へのメッセージ

学生時代の日々は、自分の将来を決める本当に大事な時期です。積極的に興味を持ったことにチャレンジしてください。

私は、大学のアルバイト先での経験がなければ弁護士になることはありませんでした。どんな経験が自分の一生を決めるのかわかりません。今しかできないこと、今やりたいことにどんどんチャレンジしてください。その経験が必ず将来何かの役に立ちます。



世界で活躍するプレイヤーに!

特技コース 2年2組

ひらおか るい
平岡 瑠依さん

全国レベルの大会に出場している平岡さん。将来の目標やゴルフの楽しさを聞きました。



現在、どのような活動をしていますか

ゴルフです。練習は、毎日やっています。現在は、主に祖父からレッスンを受けています。最近では、世界ジュニア・国体・京都レディースオープンなど、世界及び全国レベルの大会に出場しました。この3月末に開催される全国高等学校ゴルフ選手権に出場することが確定しており、試合に向けて調整中です。

ゴルフを始めたきっかけは?

4歳の時に初めて父の練習について行き、ゴルフに興味を持ちました。そこから、自分もゴルフをしてみたい、と思うようになり、6歳で本格的に練習に取り組み始めました。

小学1年生で初めて大会に出場し、小学2年生で日本代表（7～8歳の部）としてアメリカに渡りました。こうしてハイレベルな大会でも良い成績や結果が出せるようになり、ますますゴルフが好きになりました。

活動を続ける中で、うれしいこと・辛いことなどを教えてください

良かったと思えることは、全国のプレイヤーと仲良くなれることです。私はどちらかというと人見知りをする性格でした。しかし、同年代プレイヤーとのプレーの時は、積極的に話をすることができました。その経験を重ねるうちに、普段でも自分からコミュニケーションをとれるようになりました。

また、日本全国や世界各地の様々な場所に行けるのも楽しく、良かったと思います。

うれしいと思えるのはやはり、練習の成果が出た時・大会で良い結果が出た時です。楽しいと思えるの



は、仲良くなった全国のプレイヤー達と良きライバルになり、共に戦えることです。

反対に、辛いと感じるのは、スイングやウェイトトレーニングなど日々の練習が厳しいことです。練習を重ねてもなかなか結果に繋がらないときも、当然あります。その時は本当に辛くて悔しいです。

学業と両立させるために心がけていることは?

少ない勉強時間を有効に使うために、なにごとにも集中して臨んでいます。学校に来ることができる日は、遅刻せず必ず出席しよう、と心に決めています。

将来の目標は何ですか?

目標はまず、高校卒業後、プロテストに合格することです。そして世界で活躍するプレイヤーになることです。

目標としている選手は、不動裕理選手です。不動選手のように、ゴルフの実力があるだけでなく、みんなから愛される選手になりたいと決意しています。

主な戦歴

- IMGA 世界ジュニアゴルフ選手権 第2位
- 全日本女子パブリックアマチュアゴルフ選手権競技 第3位タイ
- 全国高等学校ゴルフ選手権大会 第5位タイ
- 国民体育大会 ゴルフ競技 第28位タイ

学芸トピックス

H28年度 明るくきれいな選挙啓発ポスター コンクール入選!!

今年も美術の授業で制作したポスターをコンクールに応募しました。本校からは1名の入選者ができました。

毎年、美術の授業では、1学期にポスターを制作しています。

今年度も77名の作品を本コンクールに出品した結果、1名が大阪市（第一次審査）に入選しました。

5年前より、住吉区役所から実際に使われている投票箱や投票用紙の見本などをお借りして制作の参考にさせていただいています。

本コンクールには、15年以上出品を続けています。

最初は1名だけの入選でした。しかし、年々力をつけて多い年には10名近い入選者が出たこともあります。

このコンクールに毎回出品している理由の一つは、選挙に関心を持てることももちろんなのですが、3回の審査のチャンスがあり、一次審査（大阪市）にパスすれば、二次審査（大阪府）に、すすみ、二次審査をパスすれば、さらに三次審査（中央審査＝国全体の審査）にまであがっていくことです。中央審査での受賞は、なかなか狭き門ではありますが、中央審査の段階まで

は何度もチャンスをいただいています。

本年度の入選結果は、例年に比較しますと入選者数が少なく、二次審査までは進みませんでした。全体で24名の入選者のうち、1年生は4名だけだったので、その中に入れたという意味では、よくがんばったと思います。

納得いくまで制作に取り組む姿勢が、良い結果につながりました。

入選作品は、美しい色彩と丁寧なレタリング、テーマの趣旨を正確に伝える内容で完成度の高いものでした。また、最後まで、手直しを加え、作者本人も納得いくまで制作に取り組んだことがよい結果につながったと思います。

昨年の夏より、18歳から投票が可能になりました。

高校生にも選挙権が与えられることになり、より身近なテーマとして制作に取り組めたようです。今後も、さらに新しく魅力的な作品が生まれていくことを楽しみに、このコンクールには出品を続けていきたいと思っています。



大阪市(第一次審査) 入選作品

1年6組 青山 恵美さん 作

<作者コメント>

みんなにより良い社会にしていきたいという願いを込めて、「成長」をイメージした木を描きました。ひとりひとりがきちんと自分の意志を持って、相手を思い合えるような社会になれば、と望みます。ポスターを見ることで少しでも政治に興味を持ってもらえたら嬉しいです。

書道同好会

H28年度 大阪府高等学校 芸術文化祭書道部門 入選

花香庵（和室）にて書の制作活動中。数々の審査展へ積極的に挑戦しています！

今年度初めより、花香庵（和室）にて活動しています。部員全員が経験者であることから、条幅等の作品制作・選考のある審査への出品などに積極的に取り組んでいます。

今年度大阪府高等学校芸術文化祭書道部門において、『後拾遺和歌集』収録の和歌を題材とした、1-8 松浪萌さんの作品が入選しました。また、大阪私立高校書道展では高校生4名が力作を披露しました。中学生1名も練習に励み、条幅作品の制作に臨む力を身につけました。

審査のない時期には古典臨書によって基礎から学びつつ、伝統から創造への鍛錬を重ねています。



四名の作品が展示されました。

大阪私立高校書道展

書道部門

平成28年度 大阪府高等学校芸術文化祭
黒髪のみだれもーらうちふせ
ぼまづかきやりーんや恋ーき
松浪萌さん
（二年八組）

入選

『後拾遺和歌集』
松浪萌さん
（二年八組）



コーラス部

コンテストで大健闘！ ついに悲願の金賞を受賞しました！

合唱 女声 銀賞



混声合唱 金賞

第16回 大阪ヴォーカルアンサンブルコンテスト

1月29日(日)に、箕面市立メイプルホール大ホールで行われた「第16回 大阪ヴォーカルアンサンブルコンテスト」(大阪府合唱連盟 主催)に、混声合唱・女声合唱の2グループを編成して出場し、混声合唱はついに悲願の「金賞」を受賞することができました。また、女声合唱も健闘し「銀賞」を受賞しました。



第2回 定期演奏会 3月23日(木) 住吉区民センターにて

ぜひ足をお運びください!



目指せ! 近畿・中央大会出場!!

1部昇格を目指して!!

男子バレーボール部



男子バレーボール部は、「勉強と部活動の両立」「生活習慣の確立」を基本とした上で、「1部昇格・近畿大会出場」を目標としています。練習の時は、基礎固めを中心に、公式戦を意識して取り組んでいます。また、公式戦の時は、日頃の練習や練習試合などで課題となっていた部分を事前に確認し、チーム一丸となって全力でプレーすることを心掛けています。

■主な公式戦成績

泉南大会 3位、2部リーグ 3位(春・秋)、大阪総体予選 2回戦敗退、インターハイ予選(春)・私学大会(秋)・新人戦(冬) 初戦(予選)敗退

■活動時間

活動時間	月	火	水	木	金	土	日
朝練(7:30~8:15)			●		●		
授業終了~19:00	●		●	●	●		
平日						●	●

■活動場所/本館体育館・図書館前・長居公園など

■部員数()内は女子マネージャー数

	1年	2年	合計
	15人(2)	5人(1)	20人(3)



キャプテンは語る 男子バレーボール部

キャプテン 高橋 幸貴くん(2年8組)

僕たち男子バレーボール部は、1部昇格を目標としています。この目標を達成するために全員で力を合わせて日々の練習に取り組んでいます。応援よろしくお願いたします。

応援されるチーム作り!

男子バスケットボール部



男子バスケットボール部には、選手・マネージャーを併せて合計25人が所属しています。

「応援されるチーム」を作り、中央大会に進出することを目標として活動しています。

■活動時間

活動時間	月	火	水	木	金	土	日
授業終了~19:00	●	●	●		●	●	●

■活動場所/本館体育館・長居公園

■部員数()内は女子マネージャー数

	1年	2年	合計
	14人(2)	11人(1)	25人(3)

■主な公式戦成績

- ・大阪インターハイ予選(2016年4月24日・29日)
 - 1回戦 ○大阪学芸 87-65 泉大津
 - 2回戦 ●大阪学芸 58-100 箕面
- ・大阪総体予選(2016年8月27日)
 - 1回戦 ●大阪学芸 71-99 千里
- ・私学大会(2016年11月6日)
 - 1試合目 ●大阪学芸 55-57 東海大学付属仰星
 - 2試合目 ○大阪学芸 85-45 建国
- ・大阪新人大会地区予選(2017年1月9日・14日)
 - 1回戦 ○大阪学芸 102-44 岸和田産業
 - 2回戦 ●大阪学芸 56-62 貝塚



キャプテンは語る 男子バスケットボール部

キャプテン 岸上 克くん(2年8組)

男子バスケットボール部の部員は常に明るく前向きで、チームの絆がとて強いと感じます。新チーム発足当初は、チームがなかなかまとまらず、日々悩んでいました。しかし、チームメイトと本音でぶつかり、互いに指摘し合っていくことによって、少しずつチームがまとまってきました。まだまだ十分でない点も多々ありますが、「応援されるチーム」を目指して、悔いを残さないよう最後までやり抜きます。

大阪私学大会ベスト16進出!

女子バスケットボール部



大阪私学大会ではベスト16という好成績を残すことができました。1月に行われた新人戦では強豪校とあたってしまい、1回戦敗退でしたが、日頃の練習の成果を発揮することができました。他校との練習試合の回数も増え、中央大会出場を目指して日々努力しています。

■活動時間

活動時間	月	火	水	木	金	土	日
放課後(1時間~1時間半)	●	●	●		●		
2時間半						●	
4時間							●

■活動場所/本館体育館

■部員数/2年生10人、1年生9人 合計19人

キャプテンは語る 女子バスケットボール部

キャプテン 清水 風花さん(2年10組)

私が大阪学芸高校女子バスケットボール部に入部した理由は、中学生の頃からしていたバスケットボールを、高校でもやはり続けたいと思ったからです。私は入部したのが遅くて、初めは不安でしたが、先輩も同期生も皆仲良く、すぐに馴染むことができました。

2年生になった頃、キャプテンに決まり、初めは驚きと不安でいっぱいでした。けれども、後輩が入部してきて、先輩としての自覚やキャプテンとしての責任感を持つようになりました。

女子バスケットボール部は全体がとても仲良く、部員ひとりひとりにそれぞれの個性があり、にぎやかで明るい雰囲気です。しかし、練習が始まると、皆気持ちを切り替えて真剣に取り組んでいるので、それも良いところだと思います。

私たちは、1試合でも多く勝つことを目標にしつつ、集大成となる春の大会に向けて日々練習に励んでいます。私も含めた2年生にとっては、引退の掛かった最後の大会になるので、今まで積み重ねてきた成果を発揮して、悔いの残らないものにできるように全員で頑張ります。



女子バレーボール部の紹介

過去の戦績

H23年度(強化1年目) 1部昇格
 H24年度(強化2年目) 1部3位獲得
 H25年度(強化3年目) 1部2位獲得
 H26年度(強化4年目) 春高予選ベスト16進出
 H27年度(強化5年目) 1部1位獲得(大阪で10校のみ得られる称号)
 H28年度(強化6年目) IH予選ベスト16進出
 近畿大会初出場
 新人戦ベスト8進出

活動時間

活動時間	月	火	水	木	金	土	日
7:30~朝練	●	●	●	●	●		
16:00~18:00	●	●	●	●	●		
18:00~20:00	●		●	●	●		
13:30~18:00						●	
9:00~18:00							●

活動場所/バレーボールアリーナ、本館体育館

部員数/2年生5人、1年生11人 合計16人



ベスト8進出!!

大阪高校新人大会

「誰もが応援したくなるような部」を目指して

女子バレー部監督 眞鍋早智

大阪府の参加校は約200チームあり、大阪府の優勝・準優勝校は、全国大会でも名を連ねる強豪校です。他にも強化クラブとして活動しているチームは30校以上あります。このような激戦区の大阪で、上掲の「過去の戦績」の通り、着実に進化し、一步一步本校の歴史を塗り替えています。今年度の春高予選では、ベスト8を懸けて全国大会優勝校の金蘭会高校と対戦。新人戦では、準々決勝で伝統校の四天王寺高校と対戦しました。敗退はしたものの、数年前まで手の届かなかったチームと上位層で対戦できるようになった喜びも感じられる試合でした。

また、「良きバレーボーラーである前に、良き学芸生であれ」の精神のもと、学校生活や学業面においても自己研鑽できるように心がけています。そのような普段の行動が、コート上のプレーに影響するからです。バレーボールは、ラリー中にボールを持って考える時間もなければ、周囲を見渡して確認する時間ありません。瞬時の判断が要求されるからこそ、その人の持つ人間性が出る競技です。本校の選手、学芸のバレーを見て「誰もが応援したくなるような部」を目指し、これからも頑張りたいと思います。今回の新人戦ベスト8は、あくまでも通過点を1つ越えたただけなので、これに慢心せず新たなステージに向かって頑張ります。今後とも応援よろしくお願ひします。

このチームで大阪府ベスト4を達成することです。この前の新人戦では、初のベスト8を達成しましたが、ベスト4を目標に練習していたので、負けた悔しさをバネに次こそはベスト4を達成したいと思っています。でも、結果だけにこだわるとはならず、「楽しいバレーをすること」を忘れずに頑張りたいと思います。ただ楽しいだけではなく、相手の渾身のスパイクを上げた楽しさであったり、正念場でスパイクを決めた喜びであったり、レベルの高いバレーができた時の楽しさを追求していきたいと思ひます。そして、学芸のバレーを見てくださった人たちも楽しめ、もっと応援したくなるようなチームにしていきたいです。



キャプテンインタビュー
 女子バレーボール部主将 今井咲希さん
 2年12組 今井咲希さん
女子バレー部はどんな部ですか。
 普段はとても明るく、個性豊かなメンバーが揃っています。でも、体育館に入り練習が始まると、人が変わったように真剣にバレーボールと向き合える、そんな切り替えがしっかりとできる良いチームです。
バレー部に入部して成長したと思う部分は何ですか。
 技術力はもちろんですが、一番成長したと思う部分は精神力です。バレーボールは、ボールを落としたり直接一点に繋がります。そして、絶対に一人の力だけでは成り立たない競技です。「ボールを一瞬しか触れない競技だからこそ人間性がプレーに出る」と先生にも言われます。周囲への思いやり、礼儀、勝負に対する執着心を特に学びました。
今後の目標・抱負は何ですか。

第37回 大阪府高等学校芸術文化祭

美術部

美術工芸部門展において、2-7 岡田奈々さん、2-10 森中美咲さん、2-11 後藤すずさん、2-12 宮田詩穂さんが奨励賞を受賞し、作品は1月24日(火)~29日(日)の期間で大阪市立美術館(天王寺)に展示されました。

写真部

写真部門展において、1-6 西岡誠也くんが奨励賞を受賞しました。



『道』 西岡誠也



『無用』岡田奈々



『なきむし』森中美咲



『不思議なお話』後藤すず



『はじまりと出会い』宮田詩穂